

第4回可児市地域公共交通協議会 議事要点録

日時 平成25年3月29日(金)

午後1時30分～午後2時50分

場所：可児市役所5階第1委員会室

出席者：(委員) 50音順：敬称略

安藤美喜子 加納 正佳 木村 治史 桑下 和弘 小山 幸男

佐橋 雅喜 澤田 幸博 品川 湜彦 栃川 敏 林 隆

林 則夫 林 美由樹 門間 實 宮田 博文 横田 賢二

(代理)

小倉 保二(佐々木 透) 山口 孝司(溝口 明宏)

(事務局)

総合政策課長 牛江 宏 総合政策係長 肥田 光久

総合政策係主任 渡邊 真史

欠席者：鍋島 寿 若林 拓史

1. あいさつ

会長が開会を宣した。

(議事録署名者の指名)

会長から議事録署名者として、林美由樹委員と桑下和弘委員を指名した。

2. 地域公共交通調査事業の進捗状況報告について

事務局が資料1に基づき、地域公共交通調査事業について報告した。

委員

別冊25頁について、桜ヶ丘地区のアンケート結果からさつきバス桜ヶ丘線は、自宅からバス停までの距離に対する不満が高いことが分かるが、市の考えは。

事務局

今のところ対策としてはバス停を増やすことを大前提に考えている。また、桜ヶ丘連合会のまちづくり協議会から、フリー乗降について提案をいただいておりますが、可能性を検討中であるが、いくつか課題があることもわかっているため、現在はバス停の増設が可能性としては高いと考えている。

委員

中心部の巡回路線について、既存のさつきバス路線を巡回させる方法もあると説明があったが、具体

的な運行時間はどれくらいであるか。また、中心だけを巡回する路線の場合はどれくらいの頻度で運行するのか。

事務局

1 時間に 1 本程度と考えており、現在の他のさつきバス路線よりも本数を増加させたい。

委員

さつきバスの運賃について、高齢者と中学生の半額割引をなくす理由は。

事務局

まず中学生については、大人扱いとして一般の運賃体系の中で理解していたのでそれをお願いしたい。65 歳以上については、本来割引は有り得るだろうという認識ではあるが、市自主運行バス同士の乗り換えの際の割り引きや、定期券の導入を目指していくため、その中で高齢者についても安く利用できる仕組みにしていきたい。

委員

4 頁の運行頻度の目安について、地域アクセス路線は 1 日 4 本以上とあるが、これは片道 4 本なのか往復 4 本なのか。

事務局

これは、確保すべき最低ラインを記載しており、現状の兼山線の 1 日 4 本は確保しようという意味である。そのため、全ての路線を一律に 4 本とするわけではなく、地域ごとに本数を考えていかないといけないと考えている。

委員

7 頁のさつきバス桜ヶ丘線について、確保すべきサービス水準の欄に運行本数が 6 本/日とあるが、現在と変わらないという理解で良いか。

事務局

現在さつきバスの保有台数が 5 台であり、その限られた中で運行しようとするるとこのような運行本数になってしまうが、今後具体的なダイヤを設計する段階までに精度を高め、実際の対応をすることとなる。

委員

12 頁の公共交通利用促進策について、バスという記載はさつきバス、電話で予約バス両方を指すのか。また、実施主体が行政・交通事業者とあるが、交通事業者側から提案を行った場合、行政が費用負担をすることはあるのか。

事務局

バスという記載はさつきバス、電話で予約バス両方のことである。2 点目については、個別の案件になるため、別の機会に交通事業者としてご相談いただくと良い。

委員

朝夕の運行時間の拡大について、詳細は。

事務局

現在の市自主運行バスは朝夕の通勤・通学の時間帯に対応していない。今回、計画の目標として、誰もが安心して移動できる公共交通ネットワークの構築と設定したため、今後は当然、朝夕の時間帯の運行を検討していくものであるが、現在朝夕の移動を担っていただいている路線バス等を侵すものではなく、補完するものになるかと思う。詳細については今後ニーズなどを把握しながら進めていくが、まずは中心部がある程度優先されるだろうと予測される。

委員

中心部の巡回線についての路線の説明は。

事務局

候補としては、可児駅、市役所や広見の病院や下恵土等の商業施設を回り、ア－ラに寄って戻ってくるというルートがある。また、坂戸地区や中恵土地区にも商業施設がいくつか存在しているため、この施設も寄るようにすると、ループはもう少し大きくなっていく。また、頻度という大きな課題があり、30分に1本となると坂戸地区を経由するルートは、とても回りきれないものではないため、頻度と距離を考慮しながら決定していきたい。

委員

バス停については、施設の中に置くのか道路など外に置くのか。

事務局

極力安全に乗降できる施設の中に設置したいと考えているが、その商業施設の考え方もあるし、安全策が取れるかどうか等の検討も必要になってくるため、一律ではなく個別に調整していきたい。

委員

巡回路線について、回りの方向は。

事務局

両回りで運行できることが理想であるが、本数によって変わってくる。

委員

今後、この調査結果を踏まえ、具体的なダイヤ等を決めていくかと思われるが、地域住民が公共交通を守って行こうといった認識を共有することが大切になっていくと思う。可児市においては各地区に協議会の下部組織のようなものがあり、地域住民の意向を反映できる仕組みとなっているのか。

事務局

各地にコミュニティバス地区懇談会を設け、地区の代表者やユーザー等から意見をお聞きし、得られた意見はこの協議会で報告させていただいている。

委員

今の件について補足をするが、帷子地区は西可児地域路線バス活性化協議会を設置している。これは

西可児駅の路線バスが名鉄から東鉄に移管されたことを受けて設置された協議会である。

委員

さつきバス桜ヶ丘線について、桂ヶ丘は予約のあった場合のみ運行するデマンド方式にするという案があるが、桂ヶ丘を通るときと通らないときで時刻が変わってくるため、バス停などの時刻の表示についてはどのようにするのか。

事務局

まだそこまで具体的なことについてまで検討を行っていないため、今後十分検討し、お答えできるようにしたい。

委員

帷子地区について、市のコミュニティバスは一部を除き大型団地を運行していない。これは既存の路線バスが入っている地区については、市のバスは入らないという考えによるものである。しかし、現在はバス停まで歩くことができない老人も増えてきており、路線バスでは対応できない状況にある。今後は、路線バスも市バスも一体となった、すっきりとした公共交通体系を検討していただきたい。

委員（東濃鉄道株式会社 社員）

路線バスも市バスも一体として捉えるという考えは面白いと感じましたので、一度活性化協議会にも伺いたい。

事務局

全ての地域で十分な公共交通体制ができていると言えないことは認識しているため、一つ一つステップを踏みながら解決していきたい。

委員

兼山地区はバス停までの距離に対する不満が高いと読み取れるが、どれくらいの距離で設置されているのか。

事務局

兼山地区に限らず半径 300mを目途に設置している。

委員

さつきバスの運賃について、高齢者や中学生の半額割り引きを止めることは利用者にとってマイナスであるため、十分な説明ができる体制を整えることが大事であるとする。

委員

定期券について具体的な案はあるのか。

事務局

事前に若林委員にお話を伺ったが、家族の誰でも使える家族定期という案をいただいたため、今後定期券の具体的な内容を詰める中で検討していく。

委員

中心部巡回線について、路線バスを見ていると昼間の利用はほとんどないことから、利用はないと思う。今後は地域でアイデアを出していかないといけないと感じている。

委員

電話で予約バスは認知度が非常に低い。利用の仕方が分からない人が多いため、そういった問題を認識して、もっとPRを行ってほしい。

事務局

電話で予約バスの導入の際は、説明を行ってきたが、今後は認識を改め取り組んでいきたい。

調査事業の今後の予定及び再編に向けたスケジュール等について事務局から説明した。

3 . 閉会

会長から、本日の協議結果について非公開にする部分はないことの確認があり閉会した。